

科学教育研究レター



目次

- | | |
|--|---|
| ■ 2006 年度学会賞候補者の募集 2 | ■ 研究会だより
平成 17 年度
第 6 回研究会開催のお知らせ 9 |
| ■ お知らせ 2
文部科学省の「学校における生徒等に関する個人情報」の適正な取扱いを確保するために事業者が講ずべき措置に関する指針」が改訂されました。 | 平成 18 年度
第 1 回研究会開催のお知らせ 9 |
| ■ 年会
第 30 回年会案内（第 4 次） 3 | 平成 17 年度
第 4 回研究会開催報告 10 |
| ■ 若手の会 6 | ■ 支部会だより 11 |
| ■ 理事会だより
第 217 回理事会報告（案） 7 | ■ 編集委員会だより 11 |
| | ■ 会員の声 12 |
| | ■ 広報委員会からのお知らせ 12 |

2006 年度学会賞候補者の募集

本学会の学会賞：学会賞（大塚賞）、学術賞、国際貢献賞、論文賞、奨励賞及び教育実践賞を下記により募集します。すべての賞は会員からの推薦に基づいて審査されますので、ご活躍の候補者について、多数の推薦をお願い致します。

1. 推薦期限
2006 年（平成 18 年）5 月 18 日（木）（必着）
2. 受賞資格
 - (1) 学会賞（大塚賞）：科学教育に対する優れた業績や功績によって本学会の発展に寄与した本学会会員。
 - (2) 学術賞：科学教育において先導的・開拓的な業績や功績を挙げ、本学会の発展に寄与した本学会会員。対象となる業績や功績は、賞の応募締切日から過去 10 年以内のものとする。
 - (3) 国際貢献賞：科学教育の国際貢献・国際協力研究において特に顕著な業績や功績のあった本学会会員。対象となる業績や功績は、賞の応募締切日から過去 5 年以内のものとする。
 - (3) 論文賞：科学教育に関する優れた研究を行い、その成果を本学会の「科学教育研究」誌に発表した本学会会員。対象となる論文は、賞の応募締切日から過去 3 年以内に発表されたものとする。
 - (4) 奨励賞：科学教育に関する優れた研究を行い、その成果を本学会の「科学教育研究」誌、年会論文集、研究会「研究報告」に発表した本学会会員で、受理の時点で、原則として満 38 歳未満の者。対象となる論文等は、賞の応募締切日から過去 2 年以内に発表されたものとする。
 - (5) 教育実践賞：科学教育の実践研究において特に顕著な業績や功績のあった本学会会員。また、該当する本学会会員との連携により、科学教育に従事し、教育上顕著な業績や功績のあったグループ。対象となる業績や功績は、賞の応募締切日から過去 3 年以内のものとする。
3. 受賞件数
大塚賞、学術賞及び国際貢献賞の件数はとくに定めない。論文賞、奨励賞及び教育実践賞の件数は 2 件以内である。
4. 選考
本学会の学会賞選考委員会が候補者を選定し、理事会が決定する。
5. 賞
 - (1) 本賞は賞状とする。（副賞については第 216 回理事会で廃止が決定しました。）
 - (2) 賞の贈呈は、2006 年度定時総会において行う。
6. 候補者の推薦
 - (1) 候補者を推薦する者は、本学会の会員とする。大塚賞は他薦のみによるが、その他の賞は自薦も可とする。
 - (2) 推薦者は、推薦の様式を学会事務局または学会ホームページから入手の上、その様式にしたがって作成した推薦書を事務局に提出する。
 - (3) 奨励賞の推薦に当たり、論文などの著者が複数の場合は、受賞候補者は主著者となるため、他の全著者の承認が必要となる。この承認は、推薦者において予め得ておくものとする。
7. その他
 - (1) 論文賞対象論文は、「科学教育研究」Vol. 27、No. 2 以降に掲載の論文です。また、奨励賞の対象は、「科学教育研究」Vol. 28、No. 2 以降、研究会「研究報告」Vol. 18、No. 6 以降及び第 28 回・第 29 回年会論文集に掲載の論文が該当します。
 - (2) 推薦用紙は学会ホームページに用意しているものを利用して下さい。
 - (3) 詳細は、学会事務局までお問い合わせください。

お知らせ

文部科学省の「学校における生徒等に関する個人情報の適正な取扱いを確保するために事業者が講ずべき措置に関する指針」が改訂されました。

平成 18 年 2 月に文部科学省が示している「学校における生徒等に関する個人情報の適正な取扱いを確保するために事業者が講ずべき措置に関する指針」が改訂されました。

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/16/11/04111602.htm に詳細が載っております。今回の主な改定は「学校における緊急連絡網等の個人情報の取り扱い」や卒業名簿等です。各自で確認され役立ててください。

（個人情報保護管理委員会）

つくば発 科学教育・新時代

年会企画委員会・年会実行委員会

- 1) 年会テーマ：社会に提案し社会と協働する科学教育研究の展開
- 2) 日程：2006年8月18(金)～20日(日)
 ※つくばエクスプレスの開通で東京から近くなったため、第1日目のスケジュールを午前9時30分開始にします。遠方から参加される方は前泊で予定を立ててください。
 なお、前日の午後から夕刻にかけて、若手の会と研究会第6部会とのジョイントセッションが計画されています。前泊される方はそちらにもぜひご参加下さい。
- 3) 会場：筑波学院大学(〒305-0031 茨城県つくば市吾妻3-1)
 ・アクセスと周辺地図：<http://www.tsukuba-g.ac.jp/access/map.html>
- 4) 交通機関：
 【鉄道】「つくばエクスプレス」で、東京・秋葉原から45分、「つくば駅」下車、徒歩7分。
 【鉄道】JR常磐線土浦駅下車、西口(バスのりば2番)から関東鉄道バス筑波大学中央行き、約25分で図書館情報専門学群棟前・筑波学院大学下車。
 【鉄道】JR常磐線ひたち野うしく駅下車、関東鉄道バスまたはJRバス筑波大学中央行き、約25分で図書館情報専門学群棟前・筑波学院大学下車。
 【バス】東京駅八重洲南口から高速バス(特急つくば号)で約65分、つくばセンター下車徒歩7分。
- 5) 主催：日本科学教育学会
 後援：茨城県教育委員会、つくば市、つくば市教育委員会、土浦市教育委員会、牛久市教育委員会
- 6) 年会ホームページ：<http://jsse30.tsukuba-g.ac.jp/>
- 7) 年会実行委員会：
 [委員長] 門脇厚司(筑波学院大学・学長)
 [事務局] 垣花京子(筑波学院大学)(事務局長)
 高藤清美・山野井一夫(筑波学院大学)
 [実行委員] 大高 泉・磯田正美(筑波大学)、齊藤達也(茨城県立並木高等学校)、大貫和則(茗溪学園中学高等学校)、鈴木恵美子・堀越真理子(筑波学院大学)

連絡先

〒305-0031 茨城県つくば市吾妻3-1

筑波学院大学 情報コミュニケーション学部 日本科学教育学会第30回年会実行委員会

e-mail: jsse30@tsukuba-g.ac.jp TEL: (029)858-6350 FAX: (029)856-0441

8) スケジュール(予定)

	前日	第1日目		第2日目	第3日目	
	17日	18日		19日	20日	
9:00		受付		受付	受付	
10:00		受付		学会企画課題 4件	学会企画課題 2件	
11:00		自主企画課題	ワーク ショップ (一般公開)	科学教育研究 セミナー2件	展示 セッション (一般公開)	一般研究発表 (ポスター形式 を含む)
12:00		昼食		昼食		昼食
13:00			U-18 科学研究 コンクール (ポスター発表、 一般公開)	総会・表彰	実行委員会企画シンポジウム (一般公開)	
14:00		一般研究発表	ワーク ショップ (一般公開)	会長講演		
15:00			国際交流委員会 企画セッション	学会企画 シンポジウム	自主企画課題	ワークショップ (一般公開)
16:00	若手の会、 研究会第6部会との ジョイント セッション (セミナー、 ポスター発表、 懇親会)	一般研究発表	ワーク ショップ (一般公開)			
17:00		イブニング・フォーラム		科学教育研究 セミナー		
18:00						
19:00		理事・評議員・支部長合同会議		懇親会		
20:00						

内容（予定）：次の内容を予定しています。

(1) シンポジウム

以下の二つのシンポジウムが行われます。

○学会企画シンポジウム

テーマ：社会に提案し社会と協働する科学教育研究－学会として何を社会に提案するのか－

登壇者：パネリスト＝田代英俊（科学技術館）・飯島康之（愛知教育大学）・小林辰至（上越教育大学）・伊藤 卓（日本科学教育学会副会長・元横浜国立大学）・鈴木 誠（北海道大学）

指定討論者＝小川正賢（日本科学教育学会会長・神戸大学）・吉田 淳（愛知教育大学）

司会＝磯崎哲夫（広島大学）

○実行委員会企画シンポジウム（一般公開）

テーマ：科学の最先端の研究者からの科学教育への提言－つくばからの発信－

登壇者：司会＝小川正賢（日本科学教育学会会長・神戸大学）

パネリスト＝油田信一（筑波大学）、村上和雄（筑波大学名誉教授）、小林 誠（前高エネルギー加速器研究機構・素粒子原子核研究所所長）、吉田真澄（筑波学院大学）、他につくば市内の大学・研究機関の研究者に依頼中

(2) 課題研究発表（学会企画、自主企画）

学会企画課題研究（発表者を公募しないもの）については、以下の6件のセッションが行われます（順不同、発表者名は第一発表者のみ）。それぞれの趣旨、発表者、発表タイトル等の詳しい情報については年会ホームページでご確認下さい。

① 高等科学教育の新展開－我々は、21世紀科学技術社会を担う人材をいかに養成すべきか－

オーガナイザー：鈴木 誠（北海道大学）

発表者：パネリスト＝山本 強（北海道大学大学院）、阿部和厚（北海道医療大学）、外處 理（NIWS株式会社）、田中秀樹（NTTデータ先端技術株式会社）

指定討論者＝池田文人（北海道大学）

② サイエンスコミュニケーション活性化のための博物館・科学館の新しいチャレンジ

オーガナイザー：田代英俊（科学技術館）、楠 房子（多摩美術大学）

発表者：佐藤一郎（国立情報学研究所）、藪本美孝（北九州市立自然史歴史博物館）、横山芳浩（江ノ島水族館）、真鍋 真（国立科学博物館）、木村かおる（科学技術館）他

③ 持続可能な社会のための科学教育の提言

司会：加藤 浩（メディア教育開発センター）

発表者：鈴木克徳（国連大学高等研究所）、阿部 治（立教大学）、小金澤孝昭（宮城教育大学）、荻原 彰（三重大学）

④ 新世紀型理数科系教育の展開の結実2

オーガナイザー：飯島康之（愛知教育大学）、岸本忠之（富山大学）

発表者：猿田祐嗣（国立教育政策研究所）、高橋三男（東京工業高等専門学校）、磯田正美（筑波大学）、三浦元喜（北陸先端科学技術大学院大学）、天ヶ瀬正博（奈良女子大学）

⑤ 科学・技術科・数学科の統合カリキュラムの構成原理・方法・プランの提言

オーガナイザー：小林辰至（上越教育大学）

発表者：山崎貞登（上越教育大学）、國宗 進・丹沢哲郎（静岡大学）

⑥ 新教育課程における「理科」のあるべき姿

オーガナイザー：廣井 禎（CSERS 議長）

発表者：村石幸正（東京大学教育学部附属中等教育学校）、荘司隆一（筑波大学附属中学校）、佐藤由紀夫（東京都立新宿高校）、馬場勝良（慶應義塾幼稚舎）

自主企画課題研究（発表者を公募するもの）については、以下の13件のセッションが行われます（順不同、発表予定者名は第一発表者のみ）。それぞれの趣旨、発表者、発表タイトル等の詳しい情報については年会ホームページでご確認下さい。

① 持続可能な社会のための科学教育の提言

オーガナイザー：荻原 彰（三重大学）

発表予定者：戸田 孝（琵琶湖博物館）、望月要子（国連大学）、飯島博（アサザ・プロジェクト）他

② PDAとセンシングボードを活用した小学校での環境問題学習

オーガナイザー：杉本雅則（東京大学）

発表予定者：山口悦司（宮崎大学）、橘 早苗（三木市立緑ヶ丘中学校）、杉本雅則（東京大学）

指定討論予定者：加藤 浩（メディア教育開発センター）、鈴木真理子（滋賀大学）

③ つくば市小中学校の実践にみる授業改善の取り組み

オーガナイザー：高藤清美（筑波学院大学）

発表予定者：吉田 浩（つくば市教育委員会指導課）、つくば市小中学校教員5名程度（依頼中）

指定討論者：久保田善彦（上越教育大学）

④ こんなのですか、情報の授業－3年間の教科「情報」の授業の実態と今後の課題－

オーガナイザー：垣花京子（筑波学院大学）

発表予定者：津賀宗充（茨城県立鉾田第一高等学校）、大西俊弘（奈良女子大学附属中等教育学校）、塩野雅代（茨城県立並木高等学校）他

コメンテータ：堀口秀嗣（常磐大学）

- ⑤ m-Learning: 科学教育をおもしろくするモバイルメディアの活用
 オーガナイザー: 竹中真希子 (大分大学)
 発表予定者: 中原 淳 (東京大学)、楠 房子 (多摩美術大学)、余田義彦 (同志社女子大学)、竹中真希子 (大分大学)
 指定討論者: 堀田龍也 (メディア教育開発センター)
- ⑥ サイレント・レボリューション・・・科学教育の危機を脱するために
 オーガナイザー: 加納寛子 (山形大学)
 発表予定者: 青木 繁 (NHK 番組制作局 教育番組センター)、松田良一 (東京大学)、小原 豊 (鳴門教育大学)、川村康文 (信州大学)、加納寛子 (山形大学)
- ⑦ 科学教育と自然体験学習 (2)
 オーガナイザー: 降旗信一 (社団法人日本ネイチャーゲーム協会)、宮野純次 (京都女子大学)
 発表予定者: 降旗信一 (社団法人日本ネイチャーゲーム協会)、宮野純次 (京都女子大学)、能條 歩 (北海道教育大学岩見沢校)、藤井浩樹 (県立広島大学)
- ⑧ 次世代のためのエネルギー教育
 オーガナイザー: 長洲南海男 (常葉学園大学、前筑波大学)
 発表予定者: 長洲南海男 (常葉学園大学)、市村 毅 (つくば市立吾妻小学校)、滑川さゆり (水戸市立五軒小学校)、板橋夏樹 (行方市立玉造中学校)、斎藤利行 (前北茨城市立中郷中学校)、藤井健司 (茗溪学園中学校高等学校)
- ⑨ 数学科における熟練教師の力量を探る―授業の国際比較研究の成果から―
 オーガナイザー: 清水美憲 (筑波大学大学院)
 発表予定者: 日野圭子 (宇都宮大学)、藤井齊亮 (東京学芸大学)、関口靖広 (山口大学)、大谷 実 (金沢大学)、中村光一 (上越教育大学)
- ⑩ 博物館・動物園と学校・社会との連携
 オーガナイザー: 小田泰史 (蒲郡市立蒲郡中学校)、竹ノ下祐二 (財団法人日本モンキーセンター)
 発表予定者: 寺田安孝 (愛知県立成章高等学校)、平賀伸夫 (愛知教育大学)、郡司晴元 (茨城大学)、竹ノ下祐二 (財団法人日本モンキーセンター)、小田泰史 (愛知県蒲郡市立蒲郡中学校)、山中敦子 (生命の海科学館)
- ⑪ 数学的モデリングの教育的意義とその有効性
 オーガナイザー: 佐伯昭彦 (金沢工業高等専門学校)
 発表予定者: 佐伯昭彦・氏家亮子 (金沢工業高等専門学校)、松寄昭雄 (筑波大学附属駒場中・高等学校)、西村圭一 (東京学芸大学附属大泉中学校)、池田敏和 (横浜国立大学)
- ⑫ 途上国協力の方法と課題―青年海外協力隊の支援に焦点を当てて―
 オーガナイザー: 磯田正美 (筑波大学教育開発国際協力研究センター)
 発表予定者: 未定
- ⑬ IT を使ったインタラクションのある学習のデザイン
 オーガナイザー: 稲垣成哲 (神戸大学)
 発表予定者: 生田目美紀 (筑波技術大学)、溝口 博 (東京理科大学)、舟生日出男 (広島大学大学院)、稲垣成哲 (神戸大学)

(3) 一般研究発表

口頭発表に加え、ポスター発表のセッションも行います。

発表申込みと原稿提出については、6月5日(月)～6月21日(水)の期間、申込みホームページで受け付けます。今年度より、原稿の提出は原則としてホームページへファイル(WORD 文書ファイルまたは PDF ファイル)をアップロードする方法で行っていただきます。申込みホームページへは学会ホームページと年会ホームページからリンクが張られます。アップロードによる提出が困難な場合は、年会実行委員会へご相談下さい。

(4) 科学教育研究セミナー

特定分野でアクティブに研究をされている先生をお招きし、会員向けに専門的な話を聞かせていただく講演会です。以下の3名の講演が行われます。詳しい内容については、年会ホームページでご確認ください。

- 木村捨雄 (名城大学・元日本科学教育学会会長)「科学教育研究における新しい研究概念の創出に向けて (仮題)」
- 磯崎哲夫 (広島大学)「科学教育研究の方法論的アプローチ (仮題)」
- 清水欽也 (広島大学)「理科教育の社会的効果の測定について (仮題)」

(5) ワークショップ

新しい学習指導法、実験法、研究法などを体験的に学べるワークショップが一般公開で行われます。現在、以下の企画(順不同)が予定されております。詳しい内容については、年会ホームページでご確認ください。

- ① テクノロジーの長所・短所を補完する実験観察型の総合学習 (3)
 担当者: 氏家亮子・佐伯昭彦 (金沢工業高等専門学校)、土田 理 (鹿児島大学)、佐藤 一 (静岡県立御殿場高等学校)
- ② フリーの協同学習ツール「Kneading Board」で理科の授業を変える (仮)
 担当者: 鈴木栄幸 (茨城大学)、加藤 浩 (メディア教育開発センター)、舟生日出男 (広島大学)、久保田善彦 (上越教育大学)

③ ケータイを利用した楽しいフィールドワーク (2)

担当者: 竹中真希子(大分大学)、黒田秀子(神戸大学発達科学部附属住吉小学校)、大久保正彦・稲垣成哲(神戸大学)

④ 反復再生可能型描画システム Polka を使う科学的モデルの学習支援 (3)

担当者: 中山 迅(宮崎大学)、林 敏浩(香川大学)

(6) 展示セッション(教材教具の展示・演示を含む)

昨年に引き続き、新しい実験法やシステムなどを展示するセッションを予定しています。展示セッションは一般に公開され、非会員でも展示を見ることができます。また、非会員でも出展できます。展示を希望される方は、5月31日(水)までに jsse-nenkai@freeml.com までタイトルをご連絡下さい。

(7) U-18 科学研究コンクール

第30回の特別記念企画として、小学生、中学生、高校生、高等専門学校生(18歳まで)を対象に科学研究の成果を発表する機会(ポスター発表)を提供し、優れた着想や取り組みの研究に対して賞を与える企画です。この企画は一般に公開されます。詳細については、同封の案内を参照ください。また、年会ホームページでも詳しい情報を提供しています。たくさんの方の応募があるように、小中高の先生方へご紹介・お声かけいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

(8) イブニングフォーラム

第30回の特別記念企画として、学会のこれまでの30年間の歩みを振り返り、これから進むべき方向性についてフォーラム形式で自由に語り合ってください企画を計画しております。

(9) 総会、懇親会、各種会合等

(10) その他

国際交流委員会の企画として、英語による研究発表セッション、国際交流委員会企画セッションが計画されています。詳細については、年会ホームページで紹介します。

9) 年会参加の申し込みについて

(1) 6月5日(月)～8月5日(土)の期間、ホームページで参加申込みを受け付けます。当日参加も受け付けますが、年会実行委員会の事務処理の負担を軽減するため、ホームページでの参加申込みにご協力ください。申込みホームページへは学会ホームページと年会ホームページからリンクが張られます。

(2) 年会参加費: 正会員 7,000 円、学生会員 5,000 円(年会論文集1冊の代金を含む)。但し、7月14日(金)までに納入の場合は、それぞれ500円引きの6,500円、4,500円とします。非会員(一般)4,000円、非会員(学生・院生)2,500円(年会論文集の代金は含まず)。なお、非会員については参加費の割引制度はありません。

(3) 懇親会費: 5,000 円

(4) 年会論文集(追加購入費): 1部 3,500 円

(5) 論文集送料: 送料は着払いとさせていただきます。配達時に送料を業者にお支払ください。

(6) 参加費等の送金は、銀行振込みまたは郵便振替で一人につき1枚、送金内訳を明記して合計金額を振込んでください。振込み先は次の通りです。

銀行口座

関東つくば銀行 研究学園都市支店 普通口座: 1231319

日本科学教育学会第30回年会事務局 垣花京子

(ニホンガカクキョウウイクガツカイダイ 30 カイネンカイジムキョク カキハナキョウコ)

郵便振替口座

現在、準備を進めています。口座番号が確定次第、年会ホームページにてご案内いたします。

参加費等の振込みは8月5日(土)まで受け付けます。これ以降は振込まず、年会当日に受付にてお支払ください。

(7) 宿泊施設の斡旋をつくばコンベンションビューローにお願いしました。同封の案内書をご参照ください。案内書等は年会ホームページからダウンロードすることもできます。

(8) 弁当の手配はおこないません。年会当日(3日間)は学生食堂が営業していますのでご利用ください。

若手の会

若手のみなさま、科学教育研究の最前線(フロントライン)へご案内します!

2006年の「若手の会」は、年会前日の8/17(木)に、研究会第6部会と共同開催いたします。セミナーのテーマは、ズバリ「科学教育研究の最前線(フロントライン)」。理科教育、数学教育、教育工学などの研究分野でご活躍の若手・中堅の方々を演者としてお迎えし、それぞれの研究分野のフロントラインについて各1時間程度、ご講演いただきます。参加者のみなさまで、このフロントラインを一緒に考えてみましょう。

現在、演者の方々とは交渉中です。決まり次第、専用HP <<http://human.h.kobe-u.ac.jp/jsse2006/index.html>>、学会レター、若手の会メーリングリストなどのご案内いたします。

その他、一般研究発表(ポスター形式)、懇親会も企画しています。発表申込、参加申込等の詳細は、「研究会だより」の「平成18年度 第1回研究会開催のお知らせと参加へのお誘い」をご覧ください。

翌日からの年会を盛り上げるような会合にしたいと思います。みなさま、今からスケジュールを空けておいてください！

- 日時：
2006年8月17日（木）15時～20時（年会の前日です）
- 場所：
筑波学院大学（年会会場と同じです）
- 内容（予定）：
14:30 受付開始
15:00～17:30 セミナー「科学教育研究の最前線（フロントライン）」
17:50～18:50 一般研究発表（ポスター形式）
17:50～20:00 懇親会
（※17:50～18:50は、一般研究発表と懇親会を同時並行で実施します）
- 共催：
研究会第6部会（平成18年度第1回研究会）
- 専用HP：
<http://human.h.kobe-u.ac.jp/jsse2006/index.html>

若手の会・メーリングリストでは、メンバーのみなさんが自主的に、さまざまな研究情報を交換しています。また、これまで通り、毎月1回、メールマガジンを発行しています。第14号は高野智さんの「人間ってそんなにいいものですか?」、第15号は古市博之さんの「副教本は犬山市を変えるのか?」でした。徐々に若手のネットワークが広がっています。次号は、4月中旬に発行予定です。お楽しみに。
メーリングリストは、非会員の方でも参加できます。科学教育にご関心のある方がお近くにいるらっしゃいましたら、お誘いください。

○登録の申込方法：担当の山口悦司会員宛<etuji@cc.miyazaki-u.ac.jp>に、電子メールで「JSSE若手の会メーリングリスト参加希望」とご連絡ください。

第30回年会「若手の会」企画担当委員：

岸本忠之（富山大学） kisimoto@edu.toyama-u.ac.jp
久保田英慈（愛知産業大学三河中学校） kubota@asu.ac.jp
森田裕介（長崎大学） ymorita@net.nagasaki-u.ac.jp
清水欽也（広島大学） kinyas@hiroshima-u.ac.jp
山口悦司（宮崎大学） etuji@cc.miyazaki-u.ac.jp

理事会だより

日本科学教育学会第217回理事会報告（案）

（議事録承認前。要点のみ参考掲載）

日時 2006年3月18日（土）14:00～17:00
会場 国立教育政策研究所 南館大会議室
出席者 会長：小川（正）
理事：磯崎、磯田、伊藤、浦野、垣花、熊野、小林、坂谷内、猿田、藤田、松香、吉川、吉田、吉村

1. 議事要録（案）の承認
○第216回理事会議事要録（案）を承認した。
2. 第217回理事会までの持ち回り・メール審議事項
○個人情報保護管理委員会より発議された「年会企画委員会から出された会員名簿使用に関する許諾願い」がメールで審議された。その結果、年会委員会の会員名簿使用は可とするが、ホームページならびに文書による会員への郵送通知を事前に行う。この場合に、通知発送後、1週間の対応期間をおくことで、承認された。（2月28日）
3. 報告事項
1) 庶務・事務局
○国立大学図書館協会学術情報委員会「著作権の取扱い等に関するアンケート調査」依頼に回答した（1月17日）。
○NPO 科学技術振興のための教育改革支援計画（SSISS）へU-18科学研究コンクールへの共催依頼状を発送し（1月23日）、回答をいただいた（2月17日）。
○国立情報学研究所電子図書館新規覚書（平成18年2月3日付）を送付した（1月26日）。
○村瀬康一郎会員に東海支部支部長委嘱状を発送（1月27日）し、承諾書をいただいた（2月2日）。
○次期役員候補者推薦書を受理した（1月26日、2月6日）。
○平成17年度電子図書館サービス連絡会議出席依頼状を受け付けた（2月9日）。
○平成18年度SPP関連情報の配信元が三菱総合研究所から（独）科学技術振興機構へ変更さ

- れることに同意する旨、三菱総合研究所へ連絡した(2月14日)。
- (財)科学技術振興会賞受賞者決定のお知らせを受け付けた(2月15日)。
 - (財)科学技術広報財団より「元素周期表頒布案内」を受け付けた(2月17日)。
 - (独)科学技術振興機構より科学技術情報流通技術基準(SIST)普及説明会(3月28日開催)の案内を受け付けた(3月8日)。
 - 平成17年度電子図書館サービス連絡会議に藤田理事と吉川理事が出席した(3月9日)。
- 抄録の無料公開や論文公開の猶予期間の撤廃などについて学会として8月くらいには回答しなければならないため、この件についてHPやレター等で会員に周知意見を求めるとともに、庶務および編集担当理事で問題点の整理をすることとなった。
- 2) 経理・会員
- 2005年度中間決算について報告があった。
- 3) 機関誌編集
- 第29巻第5号(英文号)4篇(研究論文3篇、実践論文1篇):発行
 - 第30巻第1号(和文号)6篇(研究論文4篇、プラザ2篇):発行
 - 特集号テーマ「社会に提案し社会と協働する科学教育研究を求めて」で公募中(応募0篇)
 - 内規「編集委員及び審査委員の守秘義務」が前回の理事会で承認されたので、Webシステムの修正が完了した時点で、投稿論文の著者名はマスクしないこととなる。
- 4) 広報
- レター174号を2月15日に発行した。Web版は同日。
 - レター175号は4月15日発行予定。原稿締切は3月31日。
- 5) 年会・学会賞
- 年会企画委員会から報告があった。
- 6) 学会IT化
- 年会企画委員会から要請があった年会システム改造はほぼ3月中に年会委員会に提示し、チェックをしてもらえる段階まで開発が進んだ。
 - 事務局移転に伴うIT化検討を開始した。
- 7) 個人情報保護管理委員会
- 文部科学省が「学校における生徒等に関する個人情報の適正な取扱いを確保するために事業者が講ずべき措置に関する指針」を平成18年1月に改訂したことの会員周知を行うか審議を行った。その結果、レターとHPに http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/16/11/04111602.htm を閲覧するよう周知を行うこととした。

4. 協議事項

1) 入退会希望者等について

- 入会希望者5名、退会希望者4名が承認された。
- [入会希望者]

非 公 開

[退会希望者]

非 公 開

* 現在会員数1,233名 年度末退会者19名を含む。

(正会員1,168名、学生会員49名、公共会員1名、賛助会員3名、名誉会員12名)

- 2) 査読規定の改訂について
- 次回以降の理事会において審議することとした。
- 3) 個人情報保護管理委員会からの答申について
- 「年会企画委員会における会員名簿使用申請」に関する答申について承認された。
 - 会員名簿作成に関する答申について承認された。
- 4) 論文抄録のレター掲載について
- 「科学教育研究」の論文抄録をニュースレターに掲載することについて、広報委員会と編集委員会とで協議することとなった。
- 5) 役員選挙について
- スケジュールについて承認された。
 - ・役員候補者名簿への掲載のお願い(承諾を得る)と選挙公報の原稿依頼を発送 3月24日
 - ・投票用紙等の郵送 4月下旬
 - ・投票締め切り 5月31日(水)
 - ・開票 6月3日(土)
 - 役員候補者について協議し、以下の通りになった。
 - ・理事候補者26名を決定した。
 - ・監事候補者2名を決定した。
- 6) 学会事務局体制について
- 研究会事業と支部活性化事業との関連を図り整理する方向でワーキンググループを立ち上げることとした。
 - 本部事務局の所在地、理事会等の会議開催場所などについて、具体的な対応を始めることとした。

次回以降理事会予定

第218回:2006年5月20日(土)14時から17時(株)内田洋行新川ビル9F AV ルーム

第219回:2006年6月17日(土)14時から17時(株)内田洋行新川ビル9F AV ルーム

平成 17 年度 第 6 回研究会開催のお知らせ 発表募集と参加へのお誘い
第 1 部会：科学教育戦略研究部会（科学教育のための新しい学習支援の開発と実践）

- [テーマ] 科学教育のための新しい学習支援の開発と実践
科学に対する興味関心を高め、科学的な思考力や創造力を伸ばすために、さまざまな教育方法の工夫や、新しい学習支援システムやツールの開発、ICT の活用などが行われている。これらの研究成果の発表および情報交換を行う。
- [日時] 平成 18 年 6 月 24 日（土）10:00 - 17:00（時間帯は予定）
（当初の候補日から変更しました）
- [共催] 日本科学教育学会東海支部、三重大学教育学部附属教育実践総合センター
- [内容] 研究発表 15 分、質疑応答 5 分の発表・討論形式を中心とします。なお、発表件数等の関係で発表時間は多少変更になる場合があります。
- [会場] 〒 514-8507 三重県津市栗真町屋町 1577 三重大学
- [交通] 津駅からバスで約 10 分。近鉄江戸橋駅から徒歩 15 分。
詳細は、<http://www.mie-u.ac.jp/traffic.html> を参照してください。
- [発表申込方法] テーマにかかわるものを中心としますが、それ以外の一般研究発表も歓迎いたします。研究発表題目、氏名、所属（共同研究者を含む、複数の場合は、登壇者に○をつける）、連絡先（住所・電話・e-mail）、発表概要を電子メールで、下記連絡先までお知らせください。折り返し、『研究報告』誌原稿執筆要項等をお届けします。
- [発表申込締切] 平成 18 年 4 月 28 日（金）
- [原稿提出締切] 平成 18 年 5 月 24 日（水）
- [参加] 発表の有無にかかわらず参加できます。会員でない方も参加できます。当日参加も可能です。
- [参加費] 『研究報告』誌購読会員は無料、当日参加（『研究報告』誌付き）は 1,000 円、参加のみは 500 円、新規購読会員は 4,000 円です。
- [担当] 下村 勉・須曾野仁志・荻原 彰（三重大学教育学部）
- [連絡・問合せ先] 〒 514-8507 三重県津市栗真町屋町 1577
三重大学教育学部附属教育実践総合センター 下村 勉
Tel:059-231-9340（内線 3452） Fax:059-231-9343 e-mail:simomura@edu.mie-u.ac.jp
- [本研究会用ホームページ]
<http://cerp.edu.mie-u.ac.jp/event/jsse06/index.htm> にて随時、情報を更新していきます。

平成 18 年度 第 1 回研究会開催のお知らせ 発表募集と参加へのお誘い
第 6 部会：インタレスト部会 II
（社会・実践者・研究者の真の協働による新しい科学教育研究の展開）

- [テーマ] 社会・実践者・研究者の真の協働による新しい科学教育研究の展開
- [日時] 平成 18 年 8 月 17 日（木）15 時～
- [発表形式] 一般研究発表は、ポスター発表のみです（パネルの大きさは、高さ 180cm × 幅 90cm）
- [共催] 日本科学教育学会 若手の会
- [内容] セミナーと一般研究発表の 2 部構成とします。セミナーのテーマは、「科学教育研究の最前線（フロントライン）」と題して 3 名の気鋭の研究者の方々に、各 1 時間程度の招待講演をいただきます。その後、一般研究発表を実施します。セミナーは 15 時～17 時 30 分、一般研究発表は 17 時 50 分～18 時 50 分です。昨年同様、一般研究発表と懇親会を同時並行で実施します。なお、若手の会の告知内容もご参照ください。
- [会場] 筑波学院大学（年会会場と同じです）
- [発表申込方法] 下記の連絡先まで、件名に「JSSE 研究会申し込み」と明記の上、発表者氏名（連名も含む）、所属、発表タイトルなどを電子メールにてお送りください。
- [発表申込締切] 平成 18 年 6 月 16 日（金）
- [原稿提出締切] 平成 18 年 7 月 14 日（金）
- [参加] 発表の有無にかかわらず参加できます。当日参加も可能です。
- [参加費] 『研究報告』誌購読会員は無料、当日参加（『研究報告』誌付き）は 1,000 円、参加のみは 500 円、新規購読会員は 4,000 円です。懇親会の会費については、後日お知らせいたします。
- [担当] 稲垣成哲（神戸大学）、銀島 文（国立教育政策研究所）、辻 宏子（北海道教育大学）、久保田英慈（愛知産業大学三河中学校）、森田裕介（長崎大学）
- [連絡先] 〒 657-8501 兵庫県神戸市灘区鶴甲 3-11 神戸大学発達科学部 稲垣成哲
e-mail:inagakis@kobe-u.ac.jp
- [本研究会用ホームページ]
<http://human.h.kobe-u.ac.jp/jsse2006/index.html> にて随時、情報を更新していきます。

日本科学教育学会 平成 17 年度 第 5 回研究会開催報告

平成 17 年度第 5 回研究会（第 2 部会：科学教育実践創造研究部会担当）を 2 月 11 日（土）に国立教育政策研究所にて開催した。テーマを「理科授業力の向上に関する研究会」とし、9 件の一般研究発表の部（内 1 件は発表取り消し）と、4 件の実践研究報告を含むシンポジウムの部でプログラムを構成したところ、全国から 42 名の参加者を得ることができた（プログラムは、レター No. 173、pp. 14～15 に掲載）。

藤井（郡上市立石徹白小）と益子（岐阜大）は、中学校技術科における事例挿法を適用した授業の開発とその実践結果について報告した。生徒に身の回りの科学技術についての理解を深めさせることは理科と技術科の共通の目標であるが、その境界に位置する具体的な教材と指導法が提案された。西村（高知市立大津中）と益子（岐阜大）は、高知県の地学特性を活かしたデジタルコンテンツ教材の開発と検証授業の結果について報告した。これは、現在の「静的な地層概念」から、プレートテクトニクスに基づいた「動的な地層概念」の形成をめざすものである。佐藤（北海道工業大）は、CD-ROM と PC のメモリだけで Linux 環境を構築できる KNOPPIX というフリーソフトウェアを用いて、高校生や大学生が大学での数学、物理学、物理学実験の基礎的な学習を行えるための教材の開発について報告した。秋吉（加西市立北条中）は、ケニアでの理科教員研修に「自己評価」を導入した結果を報告した。教員にとって自己評価の概念や趣旨を理解し実践することの大切さを強調した。石渡（千葉経済大附高）は、「科学教育研究協議会」や「新しい科学の教育フォーラム」および「NPO 法人理科カリキュラムを考える会」などを通じて、理科授業力向上のために教師が主体的に取り組んでいる研修会活動の内容とその効果把握の取組みについて報告し、教員同士が互いに学び合う場づくりの大切さを強調した。隅田（愛媛大）は、理科授業が観察評価される際に用いられる観点について日米の研究事例を分析した。「教科内容とカリキュラムに関する理解」と「児童生徒と教授学習に関する理解」は共通し、米国では「個別さへの対応」が、日本では「教育機器の利用」と「学習環境の整備」がより重視されていると報告した。松原（金沢大）は、小学校の理科授業を対象に、授業設計や授業実践を支援するために、さまざまな単元での授業展開に応じた指導場面を短時間のビデオで視聴でき、かつ検索可能なものとした CD-ROM による研修用教材について報告した。益子（岐阜大）と小倉（教育政策研）は、米国 Lesson Lab. で開発された授業ビデオを利用した現職教師用遠隔学習コースの調査に基づいて、日本における理科授業ビデオを用いた遠隔学習コースの設計の要点と課題を報告した。

シンポジウムは、「授業実践の改革者たちが目指すこれからの中学校理科授業」と題して、実践経験豊かな 4 人の理科教師から実践報告を受けた後に、会場全体でテーマについて議論した。浦田（菊池市立泗水中）は、わが国でなかなか進展しない理科授業における IT 活用について、デジタルコンテンツを活用した授業実践が有効であった実践研究の結果を報告した。小森（蓮田市立蓮田南中）は、一般に中学生の理科に対する興味関心が低い中で、「理科は感動だ！」を合い言葉に、観察実験から感動や探究心を呼び起こし、生徒が納得して理解できる、楽しい授業実践のための要件や授業スタイルについて、事例を踏まえて報告した。船戸（関市立武芸川中）は、学際的な内容に対する教科間の連携が求められる中、健康教育との連携を図った理科教育に向けた具体的提案として、保健領域と連携して、理科でブタの肺を解剖観察しはたらきを理解させた後で、喫煙の害について学習した授業実践について報告した。山川（旭川市立明星中）は、主体的に探究する生徒の育成が求められる中、旭川市教育研究会理科部で取り組んでいる生徒の思考過程に着目し科学的な見方や考え方の変容を目指した学習指導法の開発と、その実践結果について報告した。そして、これらの提案を受けて、優れた理科授業実践に必要な理科授業力とは何かについて、また、それを教師が身に付けるためにいかなる研修機会が必要か、さらには研修で習得できるものとできないものについて、参加者全体で討議を行った。

なお、研究会終了後、インフォーマルな交流会を準備したところ、約 30 名の参加を得て夜遅くまで大変活発な意見交換を行うことができた。

（文責：国立教育政策研究所 小倉 康）

平成 16 年度日本科学教育学会研究会『研究報告』誌購読費納入のお願い

研究会「研究報告」購読料の請求（払込取扱票同封）を行ったところです。下記の口座へお振込み頂きますようお願いいたします。購読料（年会費）4,000 円です。平成 17 年度の会計年度は、平成 17 年 7 月 1 日～平成 18 年 6 月 30 日となります。なお、ご自分の振込み状況を知りたい方は tkoba@juen.ac.jp へメールでお問合せください。

日本科学教育学会 研究会事務局

- 研究会事務局（全体・諸連絡）
〒943-8512 新潟県上越市山屋敷町 1 上越教育大学自然系教育講座 小林辰至
TEL&FAX: (025)521-3434 e-mail: tkoba@juen.ac.jp
- 研究会事務局（編集・印刷）
〒943-8512 新潟県上越市山屋敷町 1 上越教育大学学習臨床講座 藤岡達也
TEL: (025)521-3500 e-mail: fujjoka@juen.ac.jp
- 発表申込先：開催校担当者または研究会事務局（全体・諸連絡）
 - 原稿送付先：上越教育大学 藤岡達也 宛
 - 『研究報告』誌購読料（年会費 4,000 円）振込先：郵便局払込取扱票にて
加入者名 日本科学教育学会 口座番号 00170-6-85183
 - 研究会ホームページ：<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsse2/activity/session/index.htm>

中国支部長 広島大学大学院教育学研究科 角屋重樹

学会中国支部では、文部科学省「理科大好きスクール」指定校（平成 15・16 年度）ならびに「理数大好きモデル地域事業」指定校（平成 17-19 年度）に話題をご提供いただき、科学教育・理科教育の実践研究の発展について議論を深めたいと考えております。
お忙しい時期とは存じますが、研究集会へのご参加をよろしくご願ひ申し上げます。

主催 日本科学教育学会中国支部
後援 広島県教育委員会（予定）
日時 平成 18 年 5 月 20 日（土）13:30 ～ 16:00
場所 県立広島大学広島キャンパス（〒734-8558 広島市南区宇品東 1-1-71）
2 棟 中講義室ほか
参加費 1,000 円（資料代を含む。）
事務局 日本科学教育学会中国支部
角屋重樹（広島大学大学院教育学研究科）・藤井浩樹（県立広島大学人間文化学部）
お問い合わせ先：藤井浩樹

TEL&FAX 082-251-9826 e-mail: hfujii@pu-hiroshima.ac.jp

話題提供いただく学校

広島県呉市立渡子小学校、安芸高田市立根野小学校、世羅郡世羅町立西大田小学校、江田島市立大古小学校、福山市立高島小学校

※研究集会の前に、支部総会を予定しております（12:30 ～）。中国支部の学会会員の方はご参会をお願いいたします。

編集委員会だより

3 月 18 日（12:00 ～ 14:00）、17 年度第 5 回編集委員会が国立教育政策研究所において開催されました。第 4 回編集委員会の議事録確認後、編集状況について報告が行われました。現在、特集号の募集をしていますが、応募がないことが報告され、理事会でも論文の投稿を呼びかけることになりました。特集号のテーマは学会の掲げる「社会に提案し社会と協働する科学教育研究を求めて」です。

つづいて次の 4 点、1) 新規投稿論文の査読者について、2) 総合判定に対する異議申し立てについて、3) 査読内規の改定について、4) その他の案件について審議しました。

1) については、資料にもとづき新規投稿論文 3 編の査読者を決定しました。さらに第 30 号第 2 巻の巻頭言を依頼する執筆者を決定しました。2) については、異議申し立てに関して慎重に議論した結果、3 審査員に再度、査読依頼をすることになりました。3) の査読内規の改定については、最新の編集委員会規定とメールでの議論を踏まえ、再度対照表を作成し直し、次回に審議することとなりました。4) その他は、会長から広報委員会と機関誌掲載論文のアブストラクトをレターに掲載する件について検討するよう指示があり、検討した結果、レターの Web 化や国立情報学研究所電子図書館サービスへの提供条件等も考慮しながら、具体化することになりました。

○特集号、特集号の公募原稿の締め切り延長について

5 月 13 日（土）に延期することになりました。ふるってご応募ください。

最近 1 年間の学会誌の編集状況は下の表の通りです。皆様の積極的なご投稿をお待ちしております。編集委員会に対するご意見等がございましたらお知らせ下さい。

「科学教育研究」投稿状況および掲載決定状況（平成 18 年 3 月 31 日 現在）

年 月	新規投稿論文数		掲載決定論文数（掲載号）		掲載拒否（辞退） 論文数
	和 文	英 文	和 文	英 文	
2005 年 3 月	4	1	2(29-3)		1
	9	3	1(29-4)		1(2)
	5	5	2(29-4)		(1)
6 月	2		1(29-2)	1(29-5)	3
	7 月	3	3(29-2)		3
8 月	3	1	2(29-2)		
9 月	4	1	2(29-4)		
10 月	4	1	1(29-2)		1(2)
	10 月		1(29-4)	1(29-5)	1(1)
	11 月	4	1(29-4)	2(29-5)	(4)
12 月		2			1(2)
2006 年 1 月	2		4(30-1)		1
	2 月	3	1	1(30-1)	1(1)
	3 月	3		1(30-1)	1(2)

私は昨年、稲垣成哲会員、山口悦司会員とともに科学教育実践賞を受賞致しました。この受賞は、授業実践の中に、我々が開発したソフトウェアを取り入れて下さった多くの先生方、使って下さった児童・生徒の方々、ならびに、サポートして頂いた学生の方々に支えられた結果であります。この場をお借りして、以上の方々に、衷心より感謝申し上げます。また、我々の活動に着目し、本賞に推薦して下さいました会員、ならびに、賛同して下さいました選考委員、理事の方々に心より御礼申し上げます。

受賞の対象となった活動は、1998年以降、地道に取り組んできた「再構成型コンセプトマップ作成ソフトウェア あんどう君」に関する研究活動です。我々の活動では、現実の教育場面で有用なソフトウェアを提供するために、インターフェースや諸機能をデザインする際に、実際に授業の中で使って下さる先生や児童・生徒の声を重視してきました。その理由は、「ソフトウェアを使う人達こそ、中心に据えられるべきである」と考えているからです。

日本では、90年代の中頃まで、ソフトハウスだけではなく、研究者も、様々な教育用ソフトウェアを開発してきました。しかし、近年、教育用ソフトウェアやそれを取り巻く環境には、かつてのような活気が感じられないのは、私だけではないと思います。その背景として、1) ソフトハウスから見れば、教育用ソフトウェアの販売対象が限定されており、思うように利益を上げられなかった、2) 研究者も、その多くは、開発して評価した後に、論文などの業績としてまとめた後、「それでおしまい」にしていた、といった状況が考えられます。つまり、かつては、「作る側の論理」が先行しており、ともすれば、使う側の先生方や児童・生徒がなおざりにされていたのではないのでしょうか。

しかし現在、学校への ICT 機器の導入が進む中、「良質のソフトウェア」が望まれています。その条件として、1) 学習活動を円滑に支援する、2) 思考や対話を活性化する、3) 疑問や発見を促進する、といった点が挙げられると思います。そして、このような条件を満たすには、開発者側に、1) 学校の中の声に耳を傾ける、2) 教育や学習に関わる理論に精通している、3) ICT に関する知識や技術を豊富に有している、などの要件が求められるでしょう。

つまり、良質のソフトウェアを開発するには、開発者は、単独で開発するのではなく、学校の先生方や児童・生徒、教育寄りの研究者、工学寄りの研究者と一体となって開発を進める必要があると言えます。

また、ソフトウェアを提供した後の「フォロー」も極めて重要です。バグへの対処はもちろんのこと、それぞれの教育実践に応じた様々な要望が生じるのが自然であり、それらに応えることが肝要です。「こんな機能があれば、この活動がより円滑になる」、「この場面には、このような機能が必要だ」といった要望は、「ナマの教育実践」の中にいる先生や児童・生徒だからこそ気付くことができるのであり、開発者が事前に想定することは極めて困難です。そして、このような要望が満たされていくことによって、本当に「使える」ソフトウェアが完成するのではないのでしょうか。

翻って、従来の教育用ソフトウェアには、無駄な機能が多い、操作方法がわかりにくい、学習活動の流れにそぐわない、ソフトウェア間で、データの互換性がない、操作方法（メニューの配置、オブジェクトの操作の仕方など）が異なるなど、様々な問題を孕んだものが数多く存在します。そのため、実際に「使える」ソフトウェアは必ずしも多くはなかったと言っても、過言ではないでしょう。

また、最近では、Web で様々な情報を収集したり、デジカメや DV カメラで記録したり、デジタル化された測定機器を利用するなど、データをデジタル形式で扱う機会が増えています。これらと簡単に連携でき、データもスムーズに利用できるようなソフトウェアであれば、学習活動はより有効に支援されると考えられます。

そこで、この場をお借りして、「良質なソフトウェアをデザインするための組織の設立」を提案したいと思います。具体的な活動として、1) 現場の声を積極的に聞いて、意見や要望、現状の問題点などを集約する、2) インターフェース設計のガイドラインを作成する、3) 学習活動のモデル、その支援のモデルを提案する、4) 多くのソフトウェアで共通に利用できるように、データ形式を策定する、などがあるでしょう。このような活動を通して蓄えられた成果は、研究者に限らず、ソフトハウスなどにも広く公開します。それによって、上述したような様々な問題が解消され、「良質なソフトウェア」が数多く開発されることが期待できます。また、そうした「良質なソフトウェア」の活用は、科学教育の発展にもつながると思いますが、いかがでしょうか。

広報委員会からのお知らせ

科学教育研究レター第 175 号をお送りいたします。お気づきの点などございましたら、下記メールアドレスまでお知らせください。

担当理事：吉川 厚 (NTT データ)	磯崎哲夫 (広島大)	
委 員：川本佳代 (広島市立大)	銀島 文 (金沢大)	清水欽也 (広島大)
	杉本雅則 (東京大)	高垣マユミ (鎌倉女子大)
	人見久城 (宇都宮大)	山口悦司 (宮崎大)
幹 事：竹中真希子 (大分大)		

科学教育研究レター編集・印刷

〒153-8681 東京都目黒区下目黒 6-5-22 国立教育政策研究所内 日本科学教育学会広報委員会
e-mail: jsse-pr@itl.k.u-tokyo.ac.jp